

2022年度 茨城キリスト教学園中学校 自己評価表

目指す 学校像	<p>本校は建学の理念であるキリスト教精神に基づいて、豊かな人間性を育むことを目指しています。</p> <p>本校の教育目標は「心豊かで実力のある自立した国際人の育成」にあります。</p> <p>(1) 自己の確立 ・ ・ ・ ・ 神を敬い、自分を大切に、良い目的を持つ人生を志し、勉強に励む生徒を育てる。</p> <p>(2) 人類愛・社会性の育成 ・ ・ ・ ・ 自分と同じように家族・友だちを大切に、さらに国際人として世界の人々を愛せる生徒を育てる。</p> <p>(3) 個性の伸長と進路実現 ・ ・ ・ ・ 自分の能力・個性を伸ばし、進路実現のために意欲的に取り組める生徒を育てる。</p>
------------	--

昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標
<p>三つの重点項目を中心に、生徒・保護者・教職員の共通理解の下で種々の教育活動を実践しつつ一定の成果を年々積み重ねてきたが、なお一層ひとりひとりの生徒を大事にしたきめ細かな計画・実施・点検が必要である。</p>	<p>キリスト教教育に基づく豊かな人間教育</p>	<p>①礼拝、宗教行事等の活動を通して、豊かな人間性と情操の陶冶を図る。</p> <p>②宗教行事に積極的に取り組む姿勢を養うとともに、礼拝を通して敬虔な態度を身につけさせる。</p> <p>③豊かな情操と福祉の心を育てるための方策を具体的に推進する。</p>
	<p>国際教育と英語教育の強化</p>	<p>①国際教育を積極的に展開し、国際理解を深めると共に、その基盤でもある英語教育の強化と実践に努める。</p> <p>②生徒の発達段階や実態に即した指導計画を作成し、教育活動全体を通して、国際教育を進める。</p> <p>③留学や研修などの国際交流教育を具体的に進め、異文化体験を通して豊かな国際性を養う。</p> <p>④外国人教師による英会話教育の充実と強化に努める。</p>
	<p>学力の向上と進路指導の充実</p>	<p>①基礎的・基本的な事項を確実に身につけさせると共に、自主的学習の態度を養い、創造的な力を高め、進路実現のための実力を養う。</p> <p>②各教科で指導内容、指導計画の見直しを行い、一層の応用力の発展を図る。</p> <p>③学習指導法の工夫、改善を図り、個人差に応じた指導を進める。</p>

<判定基準> 5 : 大変よくできた 4 : よくできた 3 : ふつう 2 : やや不十分 1 : 不十分

項 評 目 価	具体的目標	具体的課題・方策	評価		次年度への課題
第 1 学 年	1. 基本的な生活習慣の確立 2. 相互に尊重し合える友人関係の構築 3. 学力の育成と伸長	①元気に挨拶し相手や場面に応じて適切な言葉遣いができるようにさせる。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用する態度を養う。さまざまな面での自己管理ができるようにさせる。	3	4	①自己管理の不得手な生徒への指導の充実。生徒を子ども扱いしない。自立支援。 ②他者の個性を受容する学年全体の雰囲気醸成。 ③S A、A各クラスに応じた学習指導の充実。 ④一貫校ならではのアカデミックな学習活動の更なる促進。
		②ひとり一人の個性を理解し、価値観の違いを認め合うようにさせる。常に他者への思いやりと感謝の心を持ち、それを態度や言葉で表現できるようにさせる。相手を受け入れる広い心を養わせる。	4		
		③予習・授業・復習のサイクルを身につけ、授業に集中して取り組む態度を育む。課題は必ず成し遂げさせ、家庭学習の充実による知識定着とその徹底を目指す。	3		
		④教科書や授業だけでは得られない様々な経験や知識を、読書指導等を通して自分のものにさせることで、科学的思考力や知的好奇心を持たせる。	4		
第 2 学 年	1. 基本的な生活習慣を確立させる。 2. 他の人への思いやりと感謝の気持ちを持たせる。 3. 意欲を持って学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 4. 読書に親しみ、継続して読書する習慣をつける。	①元気に挨拶し相手や場面に応じて適切な言葉遣いができるようにさせる。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用する態度を養う。さまざまな面での自己管理ができるようにさせる。	4	4	①挨拶、言葉遣いの指導。 ②生徒間トラブルを未然に防げるよう定期的な学年集会等での啓蒙。 ③3年生として、中学生として当然あるべき学習への取り組みを促す。
		②ひとり一人の個性を理解し、価値観の違いを認め合うようにさせる。常に他者への思いやりと感謝の心を持ち、それを態度や言葉で表現できるようにさせる。相手を受け入れる広い心を養わせる。	4		
		③予習・授業・復習のサイクルを身につけ、授業に集中して取り組む態度を育む。課題は必ず成し遂げ、毎日2時間以上の家庭学習を目指す。	4		
		④教科書や授業だけでは得られない様々な経験や知識を、読書を通して自分のものにさせる。新聞やニュースなど、世の中のさまざまな情報に目を向け、問題意識を持たせる。	3		
第 3 学 年	1. 基本的な生活習慣を確立させる。 2. 他の人への思いやりと感謝の気持ちを持たせる。 3. 意欲を持って学習に取り組む姿勢を身につけさせる。 4. 読書に親しみ、継続して読書する習慣をつける。	①元気に挨拶し相手や場面に応じて適切な言葉遣いができるようにさせる。時間や公共マナーを守り、社会に出て通用する態度を養う。さまざまな面での自己管理ができるようにさせる。	4	4	・各自の志望進路実現のため、必要な学習、課外活動を集中して取り組んでいくための指導を続ける。 ・家庭学習の方法等を再度確認するようなガイダンスがあると少しは学習に取り組むかと思う。 ・課題の提出については高校生になるので改めて考えさせなければならぬ生徒がいる。提出ができない生徒へのサポート、声掛け。 ・基礎学力を充実させ、進路選択に備えさせるように指導する。
		②ひとり一人の個性を理解し、価値観の違いを認め合うようにさせる。常に他者への思いやりと感謝の心を持ち、それを態度や言葉で表現できるようにさせる。相手を受け入れる広い心を養わせる。	4		
		③予習・授業・復習のサイクルを身につけ、授業に集中して取り組む態度を育む。課題は必ず成し遂げ、毎日4時間以上の家庭学習を目指す。	3		
		④教科書や授業だけでは得られない様々な経験や知識を、読書を通して自分のものにさせる。新聞やニュースなど、世の中のさまざまな情報に目を向け、問題意識を持たせる。	4		

宗教	1. 今年度のテーマ「賜物を生かす」ことを指針として学ぶことを目指す。 2. 自己の存在を肯定的に受けとめ、神に生かされていることを受けとめ、自分らしく生きることを励まします。	①放送礼拝の充実：生徒たちが静まって自分を見つめる時間を大切にする。	5	5	クリスマス礼拝における役割分担や活動内容について見直し、今後に生かせるよう検討していく。
		②集合礼拝の充実：実り豊かな意義ある礼拝が行われるように図る。	4		
		③キリスト教週間の充実：今年度のテーマ「賜物を生かす」について学ぶ。	5		
		④クリスマス礼拝の充実：本校の意義ある学校行事としてキリスト教的意義を学ぶ。全校生徒が役割を分担し積極的に参加できるように図る。	4		
教務	1. 学校における教育活動全般を統括するために、各学年・分掌等と連絡を密に取り、迅速な調整を行う。 2. 学校全般の教育活動が潤滑に進められるように、教務関連業務の効率化と省力化を進める	①教育活動全般が円滑に進むように、各学年・分掌と連絡を密に取り、必要に応じて迅速な調整を行う。	5	5	<ul style="list-style-type: none"> ・全教員の教務関連業務の知識・技能の向上 ・印刷機の保守・更新
		②情報システム部と連携して出席管理・成績処理・帳簿への記入などの電子化を進め、教務関連業務の効率化と省力化を図る。特に、今年度実施される新教務システム（中高プロⅡ）への移行に伴う様式変更の対応について提示する。	5		
		③中学校教職員のi-Pad導入4年目に伴い、配付資料等のペーパーレス化をさらに促進すると同時に、配信データの管理・保存方法・ルール化について検討・提示する。	5		
		④生徒用i-Pad導入2年目ということで、関係分掌と連携して効率的な使用方法や管理方法・保守について最新の情報を提示する。	4		
		⑤年間行事計画を基にして、月毎の詳細な計画を立案する。	5		
		⑥時間割調整は勿論、授業時間数の確保に努め、十分な学習活動が展開できるように努める。	5		
		⑦保健美化部と連携して教育活動に関連する環境整備に努めると共に、教員が教育に励める庶務内容をより充実させる。	5		
進路指導	各学習段階に応じた進路指導の計画を立て、実施する。	①キャリア教育を発展していけるよう検討する。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育について、ベネッセと連携して取り組むことが出来たので、次年度以降も継続する。 ・探究活動も次年度は検討していく。
		②各学年とも「三者面談」を計画し、実施する。	5		
		③「全学年 進路ガイダンス」（一貫卒業生から学ぼう）を計画し、実施する。	5		
		④探究活動を実施できるように検討していく。	3		
学習指導	各学習段階に応じた学習指導の計画を立て、実施し、学習習慣の確立と学力の定着を図る。	①「家庭学習の記録」を全学年で実施し、学習習慣の確立を図る。ロイロノートで収集した情報を生徒面接・保護者面談の資料としても活用できるようにする。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・校外模試実施から事後指導まで一貫してすることができた。 ・ゼミの在り方（長期、放課後）を次年度から内容を検討していこうと思う。
		②学力向上を図るため、基礎力養成ゼミとハイレベルゼミを計画し、実施する。	4		
		③中学校課程学力確認試験を実施する。また、学力不振者に特別補習を行う。	4		
		④実力試験を計画し、実施する。	5		
		⑤学力推移調査を計画し、実施する。	5		
		⑥「3年 一貫高2生から学ぼう」を計画し、実施する。	5		

生徒指導	1. ひとりひとりの自主性・自立性を育て、中学校生活の充実と人格の育成に努める。 2. 本校教育理念の実現にむけて払われる全教職員の取り組みに協力し、その効果的達成のため、側面から援助する。 3. 指導内容の共通理解をし、共通行動をとれるようにする。	①挨拶・正しい言葉遣い・時間厳守など、礼儀と基本的な生活習慣を身につけさせ、健康的で明るい爽やかな学校の雰囲気づくりに努める。	4	4	引き続き、①～⑤について検討し続ける必要がある。登下校中に電子機器を利用している生徒が多くなっている。どのように指導していくが検討していく必要がある。
		②生徒心得に基づいた中学生らしい端正な容姿を守らせる。	5		
		③学年・学級担任と連携することにより、生徒の問題行動等に対し、事前・事後にわたって効果的に対処する。	5		
		④いじめ防止に努めるとともに、いじめの早期発見、早期対応により早期解決を図る。	4		
		⑤インターネットや携帯電話を使用した事故・事件に対する防止および解決に努める。	4		
特別活動	1. 行事、委員会活動の充実を図る。 2. 生徒が自主的に活動できる環境作りをする。 3. 信愛会役員がより積極的に活動できるように指導、支援する。	①行事や諸活動において、学級や委員会が目標・計画をたて、それに従って活動できる体制を整える。	4	4	①コロナ禍における、特別活動の実施を更に模索していく。 ②各活動に対して、十分に準備し、迅速に提示する。 ③生徒の主体性を高め、自主的な取り組みが実施できるよう工夫をする。
		②信愛会役員の自主性を育て、自主的かつ主体的な活動ができるよう支援する。	3		
国際教育	生徒が進路を考えていくに当たり、自国の文化や海外についての理解を深め、視野を広げていけるよう指導する。	①短期留学生の受け入れについて（コロナ禍が収まり、実施できるようになれば） i. 国際教育部の担当者、及びその他の校内協力者による特別授業を行う。 ii. 受け入れに際しての説明会を実施し、ホームステイ制度の充実を図る。	-	4	現在、オーストラリア短期留学の再開が本格的に進んでいる。その成功と充実を図る。 アメリカ短期留学の再開、代替行事の充実に向け、引き続き活動する。
		②短期留学生の派遣について（コロナ禍が収まり、実施できるようになれば） i. 派遣生徒を精選し、留学制度を一層充実させる。 ii. 派遣生への事前指導と準備を十分に行う。 iii. 十分な指導と準備をするために早目に引率者を決定する。 iv. 引率の手引を作り、引率者の負担を減らすよう努める。	-		
		③コロナ禍の中でも、可能な範囲で自国の文化や海外についての理解を深める機会の提供を行う。例えば、学年や全学年規模の講演会や、希望者参加の英語プログラムなど。	5		
教育相談	1. 教育相談の立場から、明るく安心して登校できる学校・学年・クラスの雰囲気づくりのサポートを組織的に行い、良好な人間関係を築けるよう働きかける。 2. 悩みや問題を持つ生徒が、学校生活に適應できるよう、組織的に援助する。 3. 生徒の成長を援助できるように、教育相談に関する知識・技術の習得に努める。	①生徒が安心して学校生活をスタートできるよう、新入生に対し、教育相談オリエンテーションで本校の相談体制を身近に感じられるようにし、構成的グループエンカウンターで仲間づくりのアシストをする。また、その後のフォローアップ活動を行う。	5	5	今年度で、ICタイム「キリ中生として、いじめを考える」が3年分揃った。振り返りを行うと共に必要に応じて改訂を行っていく。また、指導側は繰り返しとなるので、指導の熱と質の低下が起こらないように注意する。 さらに、問題の早期発見に努め、教育相談委員会等と連携しながら早期対応をしていく。
		②中学校ワイド相談（エゴグラム）を実施し、生徒に自己理解を深める機会を提供する。	5		
		③個々人の特性を知る、悩みの早期発見、日常の生徒観察の一助として、知能検査、心理検査、Q-Uアンケートを実施する。また、結果到着後に、要配慮者の確認を行う。加えて、いじめ対策としての学びの場の提供を行う。	4		
		④教育相談部だよりを発行し、安心して生活できる場を作り上げる方法や、メンタルヘルスクエア方法を紹介することで、生徒自らの心のケア能力の向上を図る。	4		
		⑤スクールカウンセラー、養護教諭との連携を密にして情報の共有化を図り、問題を早期に発見し、適切に対応する。また、状況に応じて、特別支援会議や関係教職員対応会議を実施する。	5		
		⑥教育相談に関する研修に参加し、動向や対応について学ぶ。	4		

保健美化	1. 美化：校内の環境整備、校舎内外の清掃・美化を徹底して行う。 2. 保健：心身ともに、健康な生徒を育成する。教室の換気・湿度調節・消毒等、健康に生活するための環境を整える。	①美化委員会の消毒活動等を継続するとともに、清掃用具の管理・整備や校内の環境整備に努める。	5	4	校内ならびに社会的状況を鑑みながら、集団生活を送る学校環境を整え、皆が主体的に正しい行動選択の能力を身に付け、心身ともに健康に生活していけるようにする。
		②衛生消耗品や清掃用備品などの点検補充を行う。	4		
		③通常清掃、大掃除時の清掃方法の指導を行い、共通理解を図るとともに、美化活動の効率化を図る。	4		
		④身体計測や諸検診などを効率的に実施する。	5		
		⑤校内の環境衛生について、教室の換気や湿度の管理などを、保健委員をはじめ生徒全体で円滑に行えるよう指導する。	4		
図書館	1. 生徒や教職員が足繁く訪れる、魅力ある図書館 2. 利用しやすい学習・情報センター 3. 各教科・分掌との連携による充実した図書館活動	①蔵書構成の適正化を図り、生徒の学習・読書活動に資する蔵書の充実に努める。	5	4	<ul style="list-style-type: none"> ・図書委員会の一部活動再開 ・読書講演会等の中高大連携推進 ・電子図書館の復活再検討 ・全国学校図書館研究大会等の発表
		②諸行事・諸展示企画の充実に努め、生徒の読書に対する興味と意欲を喚起する。	5		
		③図書館からの諸案内により図書館情報の普及に努め、図書館への関心を高める。	5		
		④ブックリストの活用等により教科・分掌と協力して図書館利用を促す。	4		
		⑤図書委員会活動の活性化を通して生徒の図書館利用を推進する。	4		
渉外	1. 肩羊会会員の活動の場としての体制を整備する。 2. 肩羊会の活動を通して、生徒の学校生活の充実に図る。 3. 保護者の研修・情報交換の場としての充実に図る。 4. 諸活動の効率化をはかり、より楽しく活動できるように工夫する。	①本部役員を中心として諸活動を充実させる。	5	5	<ul style="list-style-type: none"> ・活動内容や委員数などを見直し、より良い活動ができるように工夫していく。
		②学年委員会は、学年肩羊会活動の企画運営にあたる。	5		
		③総務委員会は、肩羊会総会の際に受付や進行を行う。	5		
		④研修委員会は、教育講演会の企画立案を行う。	5		
		⑤環境整備委員会は、校舎周辺の花壇・プランターの整備を行う。	5		
		⑥厚生委員会は、校内発表会に生徒用弁当等の手配・配布をする。	5		
		⑦校外指導委員会は、登下校の指導・駅前指導を行う。	5		
		⑧広報委員会は、年3回の広報誌の作成を行う。	5		
情報システム	1. HPの充実 2. 授業でのICT活用の推進	①HPでの学校行事等の更新の迅速化	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・情報教室の整備
		②HP上で提供する情報の拡充	4		
		③パワーポイントやインターネットの授業での活用の啓蒙活動	4		
		④情報教室・英会話教室など生徒用PCの適切な管理	4		

入試広報	本校の教育内容を受験生とその保護者、小学校や塾関係者に正確に伝わる広報活動を行い、男女問わず多数の志願者を得て、入学者が増えるように努める。	①PR効果のある学校案内パンフレット・ポスター・ちらしを作成し、活動域内のすべての受験生に届けられるように努力する。	5	4	①急速な少子化が進行する中で、志願者・入学者を確保するためには、学校への評価・信頼が安定する必要がある。そのためにも、継続して周囲との信頼関係構築に努力する。 ②県立中高一貫校の増加に伴い、「私学」のよさを、今まで以上に発信する。
		②校外で行われる入試説明会や進学フェアに参加する。	5		
		③学校見学会・入試説明会等や学園祭の内容を充実させ、多くの児童とその保護者に参加してもらえるようにする。	4		
		④関連部署と協力し、中高入試広報部が一体となり、学外広報に努める。	4		
		⑤生徒募集に関わることについて、教職員全員が共通認識を持てるように学内広報に努める。	4		
国語	1. 自分の思考や感情を、「ことば」を使って効果的に「話す」「書く」能力を養う。 2. 相手が伝えようとしていることを、その意図を理解しながら正確に「聞く」「読む」能力を養う。 3. 漢字を正しく理解し的確に使えるようにするとともに、語感を磨き語彙を豊かにさせる。	①音読、正確な読解、自分の意見のまとめと発表、詩歌等の創作、作文（作品に対する意見文や感想文）等の観点から日常の授業内容を工夫し、充実させる。	4	4	・自分の書いた文章や意見を伝え合う時間の充実。 ・『声に出して読みたい論語』以外のテキストの検討。
		②「読書記録」を年間2回、夏休みには読書感想文と課題作文に取り組みさせる。	5		
		③様々な名文に触れ、音読を通してそのリズムや響きに親しませる。	4		
		④字力向上のため、漢字テストを実施する。また、その成果を見るため、「漢字能力検定試験」を計画し、実施する。	5		
		⑤国語辞典・漢和辞典・古語辞典を授業の中で積極的に活用し、語彙を増やすよう努める。	4		
		⑥「国語弁論大会」を計画し、実施する。	5		
社会	1. 地理的分野では、深く社会を立体的に捉えることを目標とし、資料活用や調査研究のための基礎的な力を養う。 2. 歴史的分野では、広い世界史の枠組みと流れの中で、日本の歴史を捉える力を養う。 3. 公民的分野では、民主主義の本質に関する理解を深め、現代における政治・経済・国際関係などについて客観的に理解し、公正な判断力を養い、良識ある市民として必要な能力と態度を育てる。	①生徒の実情を踏まえつつ一貫校の特長を生かした授業を展開する。特に中3生には、授業内外において、中学校課程学力確認試験対策を行う。	5	4	知的好奇心を持って自ら学ぶ生徒も多い一方、基礎学力の揺らいでいる生徒も少なくない。その格差の縮小へ向けた取り組みを模索し、実行したい。
		②ICT教材やアクティブラーニングの指導法を共有し、より良い授業のあり方を研究する。	3		
		③小テストを小まめに行い、基礎基本の定着を徹底する。	4		
		④長期休業を活用した課題学習の充実を図り、深い学びをさせる。	5		
数学	前倒し授業を通し、1・2年次では計算力、論理的思考を養い、3年次で数学的思考力、記述力を身につけさせる。	①<1年次>数学において必要な基本的な計算力を確実に身につけさせる。 <2年次>習熟度別クラスを実施し、計算力に加え、論理的思考能力を身につけさせる。 <3年次>コースに合わせた進度・内容をより考えて、数学的思考能力、記述力を身につけさせる。	4	4	・学習習慣の確立 ・アクティブラーニングのさらなる研究 ・数学的思考、記述力、読解力を身につけるための研究
		②種々のテストについては、基準点に満たないものは、放課後に追試を実施する。追試は強制力を持ち、これに応じない場合は、担任注意、家庭連絡等を行う。	5		
		③授業やテストに合わせ課題を提出させる。未提出者は放課後残して終わらせる。	5		
		④電子黒板の利用・アクティブラーニングを研究していく。	4		
		⑤成績不振者には、必要に応じて指名講習を行う。成績上位者対象の希望者講習を行う。	4		

理科	<p>1. 第2学年次までは基礎学力の定着と向上に、第3学年次からは専門知識の習得に重点を置く。</p> <p>2. 科学的な時事問題や発展的内容を授業に取り入れ、幅広い科学的思考を養う。</p> <p>3. 観察・実験を通して理解を深めながら実験技能を習得すると同時に、自然を探究する能力と態度を育成する。</p>	①基礎学力の定着を図るために、資料集の積極的な活用と小テストの適宜実施に努め、適切な課題学習も行わせる。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットの更なる活用 ・実験用備品の更新
		②演示実験や視覚に訴える教材などを工夫し、これを授業に有効活用する。また、それらを教員間で共有することで、相互研修とする。	4		
		③6年間の理科教育を見越し、履修内容に応じて高校の学習範囲を盛り込んだ授業展開を工夫する。	4		
		④教員間の情報交換を定期的に行い、適切な指導に努める。	4		
音楽	<p>1. 我が国や外国の音楽を学ぶことによって音楽を愛好する心情を育むと共に、豊かな感性を育む。</p> <p>2. 讃美歌やコーラスコンクールの練習を通して、音感・リズム感など音楽活動の基礎的な能力を育み、皆で美しいハーモニーを生み出そうとする協力性を養う。</p>	①歌唱や器楽の練習を通して、音楽表現の基本となる音感やリズム感など音楽の基礎的な能力と音楽性を育むよう努める。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜の向上 ・器楽教材の工夫
		②伝統の讃美歌を混声三部合唱で歌えるよう練習し、礼拝や入学式、卒業式、コーラスコンクール、クリスマス礼拝などで美しいハーモニーを響かせられるよう努める。	5		
		③質の高い演奏の収集に努め、鑑賞の授業の充実を図る。	4		
美術	<p>1. 学園祭に作品を出品することで、作品制作におけるプロセスである発想・制作・展示・鑑賞の流れを理解させる。</p> <p>2. 絵の具・カッターなど、使用する道具の基本的な扱い方を習得させる。</p>	①授業ごとの到達目標を明確にし、制作を進めさせる。	4	4	<ul style="list-style-type: none"> ・途中であきらめずに完成度の高い作品を作れるよう、ひとりひとりへの声掛けを工夫する。 ・鑑賞教材の工夫
		②机間巡視で絵の具や道具の使い方などを細かく指導し理解させる。	4		
		③学園祭での美術作品展示を充実させる。	4		
技術家庭	<p>生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。</p>	技術分野（1・2年）		4	<p>家庭分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学んだ知識が生かせるように、実習を充実させる。 <p>技術分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さらなる実習の充実化と扱う内容の改良を行う。
		①コンピューターに関する基礎的な知識と活用する技術を身に付けさせ、また情報と生活とのかかわりや情報モラルを学ばせ、情報手段を主体的に活用する能力を育成する。	4		
		②エネルギー変換の授業を通じ、生活と技術のかかわりや環境問題に目をむけさせる。	4		
		③身の回りのものづくりと栽培の技術を知り、正しい道具の使い方を身につけさせる。	4		
		家庭分野（全学年）			
①自立と共生を目指し、衣食住、消費生活と環境などについての知識や技能を身に付ける。	4				
②持続可能な社会を築くための一員として自分のできることを増やす意欲を持たせる。	4				

保健体育	1. 運動における競争の経験を通して、公正な態度や、規則を守り、協力して責任を果たすなどの態度を育てる。 2. 健康・安全に留意して運動することができる態度を育てる。 3. 集団での基本のあり方を理解し、他者を思いやり行動ができるようにする。 4. 安全に集団行動がとれるようにする。	①集団行動を取り入れ、メリハリをつけた行動や姿勢がとれるようにする。	5	4	・基礎体力の向上 ・特異な種目ばかりではなく、苦手な種目に対しても自主的に取り組む姿勢の向上 ・ICTを活用して客観的な動きの確認などの振り返りに活用していきたい。
		②見学者・欠席者数の減少のため、状態把握に努める。	5		
		③体育授業の際の服装を徹底する。	4		
		④基礎体力強化のための運動を積極的に取り入れる。	4		
		⑤事故防止に努め、安全に授業に取り組める環境作りをする。	5		
		⑥生徒達の自主性を育てる。	4		
		⑦自己の能力に適した課題をもって運動を行い、その技能を高めて競技し、また記録を高めることができるようにする。	4		
英語	1. 英語を聞くこと、読むこと、話すこと（やりとり・発表）、書くこと、の技能を身に着けさせる。 2. 様々な文化に対する理解と知識を深める。	①英語のアウトプットを増やすため、生徒の主体的な活動を授業・家庭学習で取り入れる。	5	4	・ICTを活用した、インプット、アウトプット両面のより効果的な指導方法を研究する。 ・英検に限らず、標準化試験を活用して生徒の英語力の伸びを把握し、普段の指導に生かす方法を研究する。
		②文法・語法を、将来正しく英語を使用できることを見据えて、指導する。	4		
		③English Workshopや留学生との交流活動など、英語を通して様々な文化を学ぶ機会を取り入れる。（コロナ禍が収まり、実施が可能となれば）	4		
		④実用英語技能検定を積極的に受験させる。 2年次 SAクラス 英検3級合格・準2級挑戦 Aクラス英検4級合格・3級挑戦 3年次 SAクラス 英検準2級合格・2級挑戦 Aクラス英検3級合格・準2級挑戦	4		
英会話	英語ネイティブ教師と、英語を使う体験を通して、英語学習に対する意欲を高める。	①英語（日本人教師が行う）の授業と情報交換を密にし、効果的な指導を行う。	4	4	・英語（日本人教師）の授業とさらに情報交換を密にし、シラバスの改善を図る。 ・英語ネイティブ教師同士のコミュニケーションもさらに密にする。 ・教師、生徒にとって、さらに明確な成績のつけ方・フィードバックに仕方を研究する。
		②1クラスを2つに分け、それぞれのグループを外国人教員が担当することで、少人数教育を実現し、LISTENINGとSPEAKINGの練習・活動を出来るだけ多く取り入れる。	5		
聖書	創造主なる神の存在を知ることにより命の尊さを学び、自らを肯定的に受けとめる。与えられた賜物を生かし、隣人愛という概念により世に貢献することを学ぶ。	①キリスト教に関して基礎的な知識を理解する。	4	4	聖書が、今生きる生徒たちに何を伝えようとしているのか、大事なことを考える機会となるような授業を実践していく。 建学の精神をどのように学ぶか、検討していく。
		②キリスト教の基となった人生観を学ぶ機会を与える。	4		
		③教会を訪問することによって、建学の精神を学ばせる。	4		
総合	1. 自ら課題を見つけ、自から学び、主体的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育てる。 2. 自らを深く見詰め、真理を探究し謙虚に自己の生き方を考えることが出来るようにする。	①教科学習や諸行事・部活動など、すべての教育活動を通して培っていく。	4	4	ICT教育やタブレットとを上手く融合させ、デジタルとアナログの両面から、生徒の資質と能力を育む方策等を模索する。
		②総合学習の時間を通して、主体的に学習し、適応していく能力を育てる。	4		
		③礼拝を通して、人類や世界を視野においた価値観を養う。	5		